



用具の保護とメンテナンス

ver. 1.2





Made in France
Patent Pending

15154-GC6719

CE 0082
EN567: ● Ø8-13mm

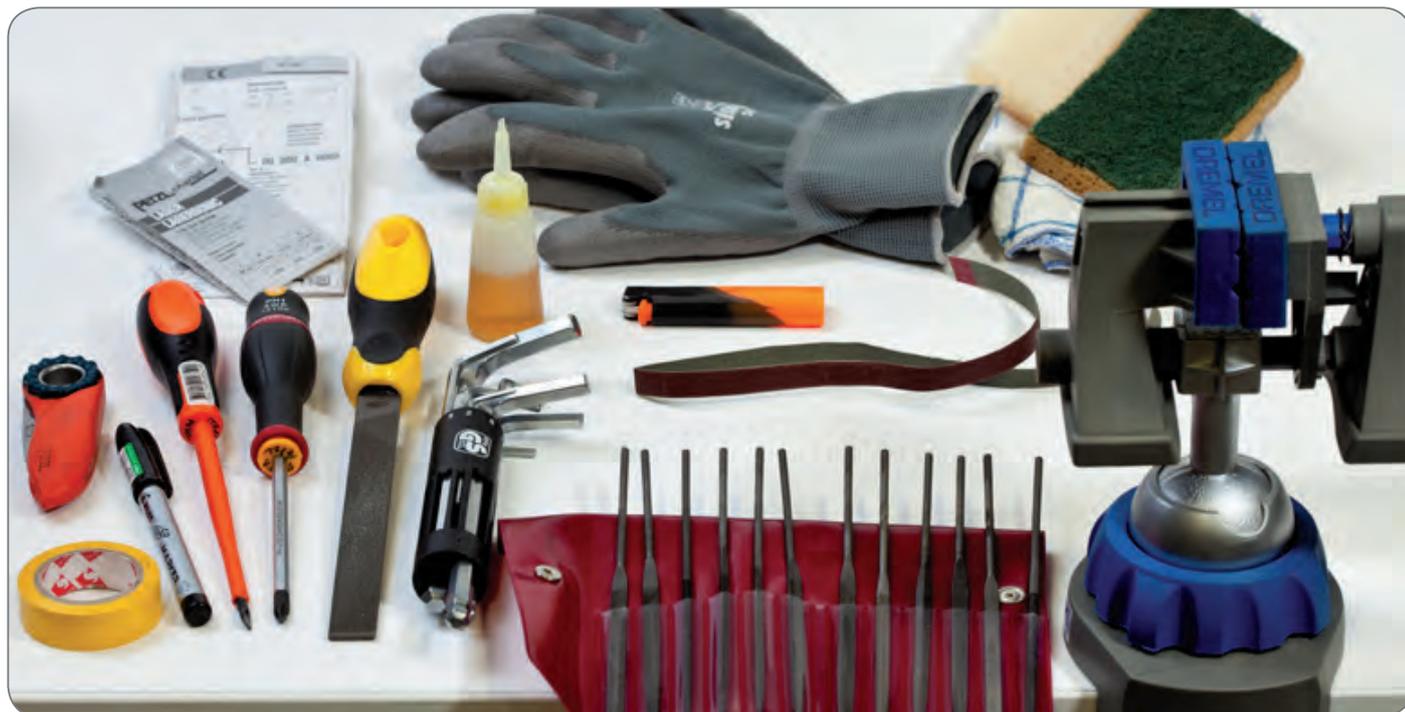
CLASSIFIED
UL
45YF

ASCENDER : tested to 5 kN Ø11-13mm
PULLEY : MBS 22 kN Ø11-13mm
T (TECHNICAL USE)
Meets NFPA 1983 (2012 ED.)

適切なメンテナンスにより、製品を長く使用できます。そのためには、次のことを考慮する必要があります：
製品の使用方法（使用の強度、頻度、状況）、持ち運び方法、保管方法、メンテナンス方法。

これら全てに注意することで用具の消耗を抑えられます。

本資料は、用具の管理に関するペツルの注意事項をまとめています。



Index

• 基本原則	Page 3
• 金属製品	5
• ハーネス	7
• ヘルメット	9
• スリング、ランヤード、エネルギーアブソーバー	11
• カラビナ	12
• ブレイクデバイス、下降器	13
• アッセンダー	14
• プーリー	15
• ロープ	16
• アイスアックス、クランポン、アイススクリュウ	18

基本原則

- 個人用保護具の管理に気を配ってください。用具を放置しないでください。用具を床や地面に投げないでください
- 各製品の取扱説明書（ペツルおよびペツルジャパンのウェブサイトより入手可能）にある注意事項を読んでください
- ペツルおよびペツルジャパンのウェブサイトの各製品ページにある PPE の点検に関する情報を確認してください

* PPE とは、一人のユーザーが装着したり、持ち運んだりする個人用保護具（Personal Protective Equipment）の略です。PPE は、3つのカテゴリーに分類されます：

カテゴリー1：危害要因：低、軽い衝撃、太陽光（例：眼鏡、グローブ）

カテゴリー2：危害要因：高（例：通気孔付ヘルメット、クランポン）

カテゴリー3：危害要因：高、致命的（例：ハーネス、カラビナ、アイスアックス）



ペツル製用具の耐用年数について

- ペツルのプラスチック製品及び繊維製品の耐用年数は、製造日から数えて最長 10 年です
- 金属製品には特に設けていません
- 警告：極めて異例な状況では、1 回の使用で廃棄しなければならないこともあります。製品の消耗は使用方法や強度、環境に大きく左右されます：劣悪な使用環境、鋭利な角との接触、極端な高 / 低温下での使用や保管、化学薬品との接触等
- ペツルおよびペツルジャパンのウェブサイトの各製品ページにある PPE の点検に関する情報を確認してください

ペツル製品の製造からの経過年数はどこで確認できますか？

全てのペツル製 PPE はシリアル番号によって確認可能です。シリアル番号はレーザー、刻印、ラベル等の様々な方法でマーキングされており、ペツルが自社製品を追跡できるようになっています。

製品の製造年を確認するには、次の方法でシリアル番号を確認してください：

コードタイプA	コードタイプB	旧モデルハーネスの記載例	旧モデルコネクターの記載例
09 365 AB 1234	16 A 1234567 123	99 289 A	05 06
09 製造年	16 製造年	99 製造年	05 製造月
365 製造日（製造年の何日目）	A 製造月（例：A=1月, B=2月）	289 製造日（製造年の何日目）	06 製造年
AB 製品の検査担当	1234567 ロット番号	A 検査担当の識別コード	
1234 識別番号	123 識別番号		

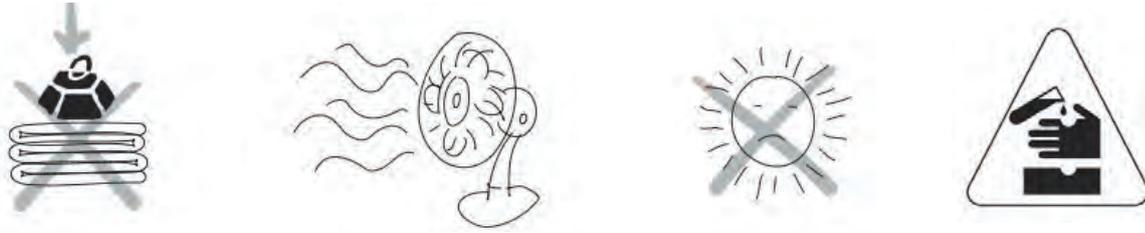
基本原則

持ち運び

- 用具を保護するため、バッグ等に収納することを推奨します
- バックパックに収納する際には、クランプの爪等鋭利なものが、ヘルメット、ロープ、スリング等に損傷を与えないよう注意してください
- トラック、電車、飛行機、ボート等での移動においては、極端な高 / 低温下での保管となり、製品が劣化する可能性があります。例えば、繊維製品やヘルメットを直射日光が当たる窓際や車のトランクに放置しないでください。温度が 80 °C を超える可能性があります
- 例えば、車のトランクにおいては、内容物が漏れるおそれのある車のバッテリー、ガス缶、クリーナー等に近づけないよう注意してください。警告：化学物質、刺激物、腐食性物質（酸等）との接触は避けてください。用具の状態に疑問がある場合は廃棄してください

保管

- 換気が良く、直射日光（紫外線）が当たらない場所で用具を保管してください
- 用具を保管するための場所を確保してください。警告：刺激物、腐食性物質（酸等）との接触は避けてください。用具の状態に疑問がある場合は廃棄してください
- カビが発生するおそれのある湿った場所に用具を保管しないでください（湿気のあるクローゼット、バッグ、内部が湿った防水容器等）。長距離を移動する場合、移動中の港や空港で湿気の影響（特に塩分の影響）を受けないよう気をつけてください



修理

専用のパーツと交換する場合を除き、ペトルの施設外での製品の改造および修理を禁じます。交換用パーツについては、ペトルおよびペトルジャパンのウェブサイトをご参照ください。

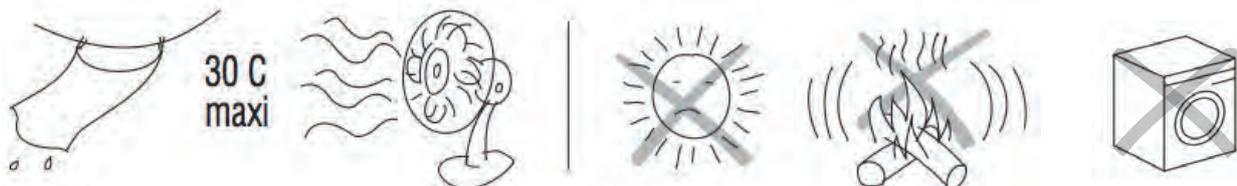
疑問がある場合は、ペトルジャパン株式会社にお問い合わせください (<https://www.petzl.co.jp>)。

洗浄

洗浄時の注意事項については、それぞれの製品カテゴリーごとに明示されています。

乾燥

- 使用が終わった際には、洗浄が必要ない場合でも用具をバッグから取り出してください
- 紫外線の当たらない場所で用具を自然乾燥させてください
- 直射日光、焚火、暖房器具等の熱源の近くは避けてください



メンテナンス

金属製品（ビレイデバイス、下降器、カラビナ、プーリー、アッセンダー、アイスアックス、クランプ、アイススクリュウ）を除き、一般的にレクリエーションで使用するペトル製品は、洗浄以外に特別なメンテナンスは不要です。

個体識別

ペツルの金属製品は、レーザー彫刻、ラベル、打刻のいずれかの方法により、モデル名、適合規格番号、トレーサビリティのためのシリアル番号がマーキングされています。

使用上の注意

ユーザーによる金属製品のカスタマイズ：

- カラビナ等の金属製品への彫刻は、製品の劣化につながる改造に該当するため、推奨しません。打刻機やポンチは使用しないでください。打刻機やポンチを使用したマーキングは、刻印の深さ、打刻による衝撃の強さ、打刻された箇所により、製品の性能に影響を及ぼすため、認められません
- 但し、電動彫刻器によるマーキングについては、シリアル番号の近くに深さ 0.1 mm 未満のものであれば可能です
- 少量の塗料（ペイントマーカー、金属用マーカー）を用いた金属製品へのマーキングも可能です。警告：用具を塗料に浸さないでください。細めのペイントマーカーを使用してください
- 機能に影響を与える箇所（可動箇所等）にはマーキングしないでください。別の用具やロープと擦れる箇所を避けてマーキングする必要があります。マーキングにより、メーカーによる既存のマーキング（シリアル番号、適合規格等）が隠れないようにしてください
- 塗料を使用したプラスチック製品へのマーキングはできません。塗料に含まれる化学物質がプラスチックを劣化させるおそれがあります
- 全ての塗料が金属製品に適しているかを検証できないため、金属用の塗料を使用してください



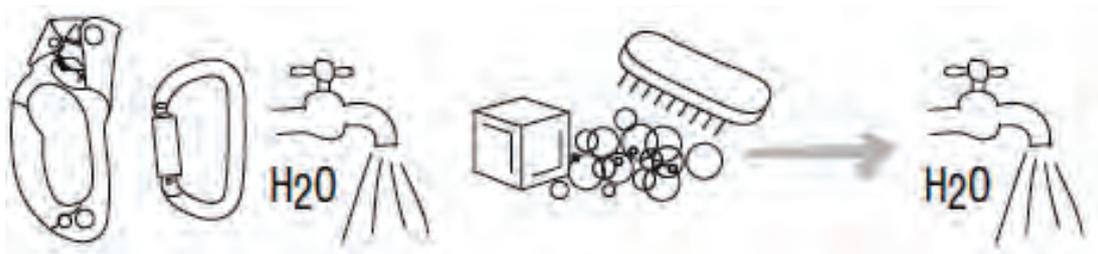
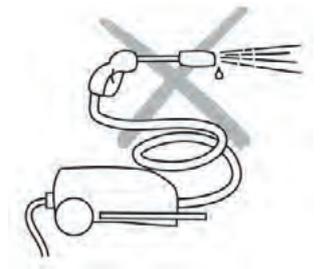
ロープが干渉しない箇所には、粘着テープの貼付が可能です。



金属製品

メンテナンス

- 海辺等塩気のある環境で使用した後は、水ですすいでください
- 小型のブラシを使用して、油混じりの汚れや泥を取り除いてください
- せっけんを含んだぬるま湯（中性、最高温度 30 °C）で洗い、水道水でよくすすいでください
- 酸や刺激の強い洗剤を使用しないでください。脱脂洗剤は油を取り除き、研磨剤の効果により摩耗を早めるおそれがあるため、使用しないでください
- 金属製品の中にはプラスチック製のパーツが含まれるものもあります。家庭用の洗顔石鹸やボディソープのみを使用して下さい。その他のクリーニング用品（例：溶剤、しみ抜き剤、脱脂剤等）は、プラスチックには使用できません
- 高圧洗浄は避けてください。高圧洗浄は油を取り除き、器具の可動部分を傷めるおそれがあります
- 用具への注油が必要な場合、注油には、溶剤を含まない機械油かグラファイトパウダーを使用してください。注油後に、余分な油を布で拭き取り、スリングやロープに油が付着するのを防いでください



ハーネス

使用上の注意

- ハーネスに名前、住所、血液型等をマーキングできます
- ラベルおよび快適性に関わるパーツにはマーキングできますが、安全性に関わるパーツにはできません。取扱説明書の内容を確認してください。ハーネスのラベルには書き込み可能なスペースがあります
- タグを結束バンドで取り付ける方法もあります
- マーカー、塗料、粘着テープ、ステッカー等に含まれる化学成分がナイロンに適さない可能性があります。これらの物質は繊維を劣化させ、またプラスチックの構造と強度に影響を与える可能性があります。ハーネスへの粘着テープを使用したマーキングは、快適性に係わるパーツにのみ可能です。マーキングがハーネスの正しい使用に影響しないよう注意してください

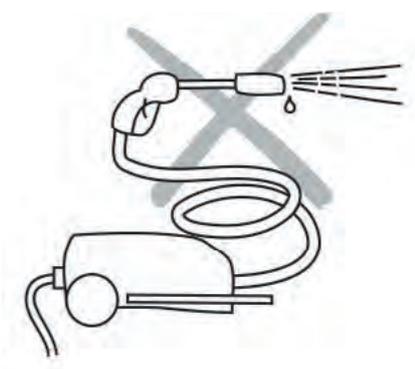
高所で塗装や吹き付け塗装を行ったり、油分が付着する環境で作業したりする場合、使い捨てのカバーオールを使用してハーネスを保護する方法があります。ランヤードを通すには、カバーオールにハサミで穴をあける方法があります。



ハーネス

メンテナンス

- 定期的に洗浄することで、個別情報やトレーサビリティ、適合規格等のマーキングが識別できる状態を保てます。また繊維製品を清潔な状態に保つことにより、縫い目やストラップの点検がしやすくなります
- 海辺等塩気のある環境で使用した後は、水ですすいでください
- せっけんを含んだぬるま湯（中性、最高温度 30 °C）で洗い、水道水でよくすすいでください
- 小型のブラシを使用して、砂や泥を取り除いてください
- ハーネスは洗濯機で洗うことができます。水温を 30 °C、デリケートな繊維用のコースに設定し、脱水は行わないでください。ハーネスの金属パーツによって洗濯機の内部が損傷しないよう、厚手の繊維製バッグに入れてハーネスを洗濯してください
- 家庭用の洗顔石鹸やボディソープのみを使用してください。その他のクリーニング用品（例：溶剤、しみ抜き剤、脱脂剤等）はナイロンに使用することはできません。製品を劣化させる可能性があります
- 高圧洗浄は避けてください
- ハーネスを吊り下げて乾燥させてください。洗濯用洗剤を使用しないでください



ヘルメット

管理とメンテナンスについて

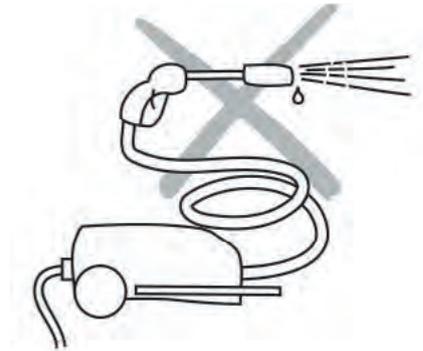
- ヘルメットに名前、住所、血液型等をマーキングできます
- 快適性に関わるパーツへはマーキングできますが、安全性に関わるパーツにはできません。粘着性テープやタグを結束バンドで取り付ける方法があります。塗装は厳禁です。詳しくは取扱説明書の注意事項を確認してください
- ヘルメットによっては、専用の反射ステッカーや透明ステッカーを貼り付けられるスペースがあります。必ずペツルの純正ステッカーを使用してください。ステッカーは交換用パーツとして購入できます
- 大量に汗をかく場合は、ヘルメットの内側を保護するため、バンダナ等で頭を覆ってください
- バックパック内でヘルメットに圧力がかからないようにしてください
- ヘルメットの上に座らないでください



ヘルメット

メンテナンス

- 海辺等塩気のある環境で使用した後は、水ですすいでください
- せっけんを含んだぬるま湯（中性、最高温度 30 °C）で洗い、水道水でよくすすいでください
- 家庭用の洗顔石鹸やボディソープのみを使用してください。その他のクリーニング用品（例：溶剤、しみ抜き剤、脱脂剤等）はポリカーボネート、ポリスチレン、ナイロンに使用することはできません。ヘルメットを劣化させるおそれがあります
- ABS樹脂製のシェルは、消毒用アルコールで軽く湿らせた布で拭くことができます。警告：ヘルメットを直接アルコールにつけないでください
- 高圧洗浄は避けてください



修理

ヘッドランプクリップおよびあご紐調節バックルのオス側は交換可能です。内部のフォームは交換用パーツとして入手可能です。これらのパーツについては、ペトルジャパン株式会社にお問い合わせください (<https://www.petzl.co.jp>)。



スリング、ランヤード、エネルギーアブソーバー

使用上の注意

スリング、ランヤード、エネルギーアブソーバーをカスタマイズする場合、マーカー、粘着テープ、ステッカーに含まれる化学成分がナイロンを劣化させるおそれがあることを理解してください。

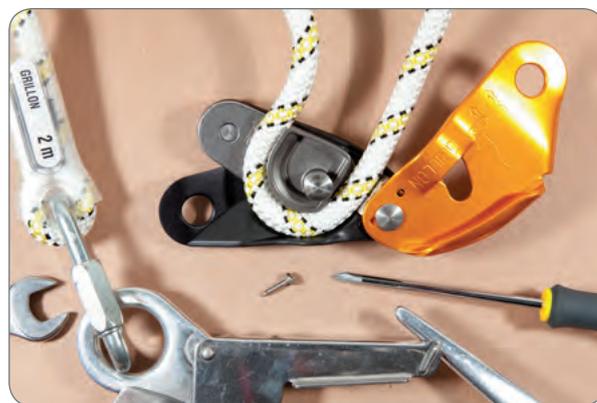
製品の劣化を避けるため、スリング等の表面にマーカーペンでマーキングしないでください。製品のラベルにマーキングしたり、縫製された末端を保護するプラスチックスリーブに粘着テープを貼ったりすることができます。

エネルギーアブソーバーを個人で管理するために、保護ポーチにマーキングしたり、保護ポーチの中にタグを入れたりすることができます。



ランヤードによっては、簡単に交換できるアクセサリがあります。例えばランヤード『グリヨン』のロープについては、金属製パーツよりも耐用年数が短いため、交換用ロープを使用して簡単に交換可能です。

各製品の取扱説明書の内容をご確認ください。



カラビナ

メンテナンス

- スプリングの動作を回復させるには、ヒンジに注油してください
- 注油後に、余分な油を布で拭き取り、スリングやロープに油が付着するのを防いでください
- 脱脂洗浄剤はヒンジやスプリングの油を取り除き、劣化を早めるおそれがあるため、使用しないでください
- 高圧洗浄は避けてください。高圧洗浄により、ヒンジの潤滑性が損なわれます



ビレイデバイス、下降器

メンテナンス

ビレイデバイス本体に鋭いエッジができた場合、製品を廃棄する必要があります。金属製品本体に深さが 1 mm を超える摩耗がある場合、製品の廃棄を推奨します。他の下降器と同様、『ルベルソ』の金属部分はロープとの摩擦により摩耗します。

下降器を長く使用するために、目の細かいサンドペーパーで鋭いエッジを丸めることができます。これにより、エッジによるロープへの損傷が抑えられます。この作業は、摩耗が 1 mm を超えない範囲で行えます。



下降器『ストップ』および『シンプル』のポピンは、交換用パーツとして入手可能です。パーツが摩耗した際に交換してください（取扱説明書をご参照ください）。



アッセンダー

メンテナンス

泥を取り除くには小型のブラシを使用してください。アッセンダーをロープ上で正常に機能させるには、歯に汚れが無い状態を保ってください。



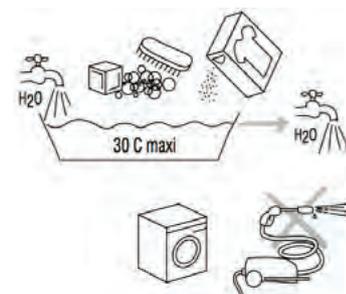
メンテナンス

- シールドベアリングは予め潤滑油が注油されており、またブッシュは自己潤滑性であるため、特に注油の必要はありません。アドベンチャーパークでの使用のように激しく使用する場合や、水中で使用した場合、注油することもできます
- 脱脂洗浄剤は油を取り除き、接合部やベアリングの劣化を早めるおそれがあるため、使用しないでください
- 高圧洗浄は避けてください。高圧洗浄は接合部を傷め、自己潤滑性ブッシュから油を取り除くことでプーリーを乾燥させたり、シールドベアリングに水を侵入させたりすることがあります

ロープ

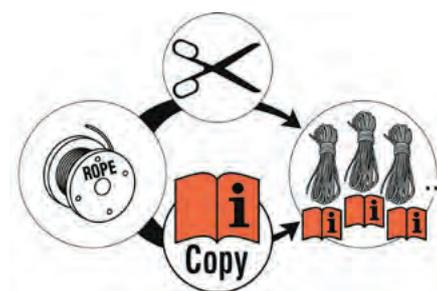
使用上の注意

- ロープを足で踏まないでください
- 繰り返しロープを使用する場合、キンクを避けるため、使用ごとに結び側の末端を替えてください
- 熱によりロープの外皮が傷み、消耗が早まるため、速いスピードでの下降（懸垂下降、トップロープでのローダウン）は避けてください。下降のスピードが速すぎると、下降器が熱を持ちロープのナイロン繊維（融点：230℃）を溶かしてしまいます
- ロープを汚れ等から保護するため、適切なバッグに収納してください
- ロープは巻かずにバッグに収納してください。これにより、キンクが避けられます。ロープを尖ったものと接触させないようにしてください（アイスクリュー、アイスアックス、クランプン）
- ロープをきれいな状態に保ってください。ロープの状態は他の器具の摩耗に影響する場合があります。例えば、泥のついたロープはアッセンダーの正常な機能を妨げる恐れがあります。濡れたロープや砂のついたロープはアッセンダー、下降器、コネクターの摩耗を早める可能性があります
- マウンテンアリング（特に氷河における）、キャニオニング、ケイビングは、泥、水、砂を帯びた摩耗の激しい環境で行われます。使用後にロープを水ですすいでください
- ロープのカット
 - きれいにカットするために、熱したナイフを使用してください
 - ロープをカットする際（リール巻きの測り売りや、使用しているロープを分ける場合等）には、全てのロープの末端に適切な情報をマーキングしてください。最低でも、ロープの直径とカット後の長さを記載してください
 - ラベルや粘着テープに規格に関する情報を記載し、ラベルをヒートシュリンク（警告：80℃を超えないようにしてください）で保護してください



ラベルに記載する情報

- メーカー名
- ロープの種類
- CE マークおよび認証機関の ID 番号
- 長さ
- 直径
- 製造年を含む製品のシリアル番号
- 製品番号



ロープ

- エッジ等との接触による摩耗からロープを保護するには、『プロテック』『セットキャタピラー』『ロールモジュール』等のローププロテクターを使用してください

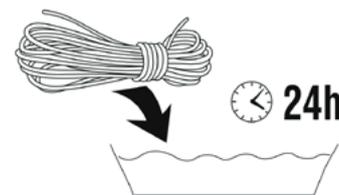


セミスタティックロープの特徴

セミスタティックロープを最初に使用する前に、24 時間水に浸してください。

これにより、外皮と芯の結合が良くなり、また製造過程で使用された油分が取り除かれます。

直射日光を避け、風通しの良い場所で自然乾燥させてください。乾燥後は、ロープが約5%縮みます。必要な長さを決める際は、この縮みを考慮して計算してください。また、ロープは使い込むことにより、さらに5%程度縮みます。



メンテナンス

- 海辺等塩気のある環境で使用した後は、水ですすいでください
- せっけんを含んだぬるま湯（中性、最高温度 30 °C）で洗い、水道水でよくすすいでください
- ロープは洗濯機で洗うことができます。水温を 30 °C、デリケートな繊維用のコースに設定し、脱水は行わないでください
- 家庭用の洗顔石鹸やボディソープのみを使用してください。その他のクリーニング用品（例：溶剤、しみ抜き剤、脱脂剤等）はナイロンに使用することはできません
- 高圧洗浄は避けてください

アイスアックス、クランポン、アイススクリュー

使用上の注意

- 乾いた布でアイスアックスとクランポンを拭いてください
- ストラップが濡れた状態でクランポンを保管しないでください
- アイススクリューはキャップを取り外して拭き、完全に乾かしてください
- アイススクリューを持ち運ぶ際は、保護ケースに収納するなどして、ねじ山が損傷したり、刃先が鈍くなるのを防いでください



メンテナンス

錆びたアイスアックスのピック

- アイスアックスのピックは高強度スチールで製造されていますが、防錆処理はされていません。使用後に錆びが生じる場合がありますが、この錆びによってアイスアックスの強度や性能が低下することはありません。この錆びを取り除くには、該当箇所を研磨剤をつけたスポンジでこすってください。多くの場合、使用することで錆び跡は自然に消えます
- 錆びを減らすには、使用後に毎回アイスアックスを乾いた布で拭くことをお勧めします。ピックの保護性能を高めるには、オイルやシリコングリスでコーティングすることを推奨します



メンテナンス

アイスアックス、クランポンの研ぎ方

- アイスアックスのピックを取り外すには、六角レンチを使用してナットを緩めます
- スチールの特性を損なう熱が発生するのを避けるため、必ずやすりを使用して手で研ぐようにします
- 金属を研ぐ際は平やすりを使用してください
- 過熱によりスチールの特性を損なうのを避けるため、頻繁にアイスアックス全体を冷やす必要があります。アイスアックスを過熱すると、ピックの歯は簡単に鈍くなります

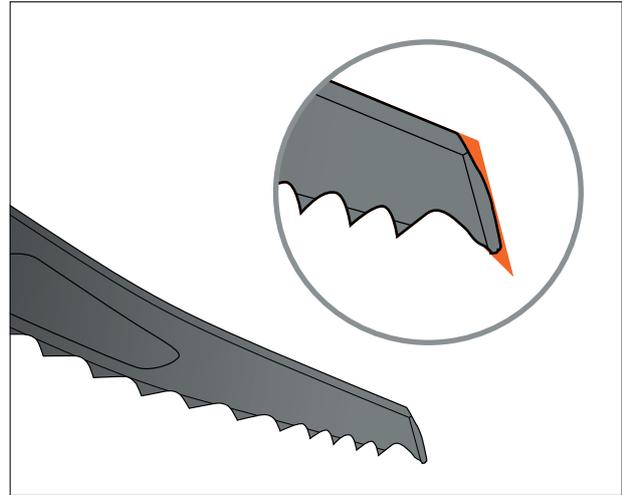


アイスアックス、クランポン、アイススクリュー

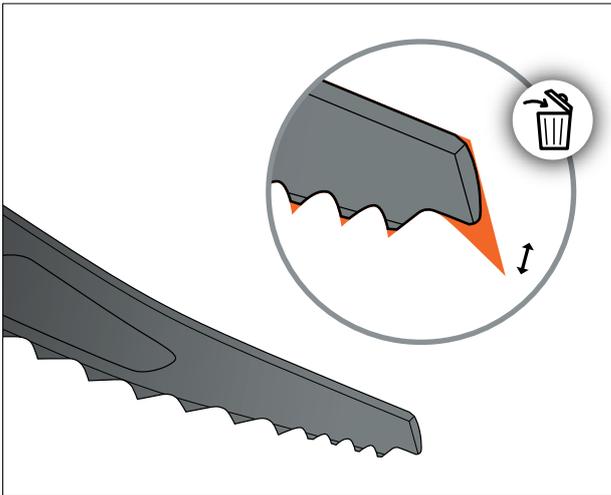
クライミングで使用するアイスアックスのピックを研ぐには



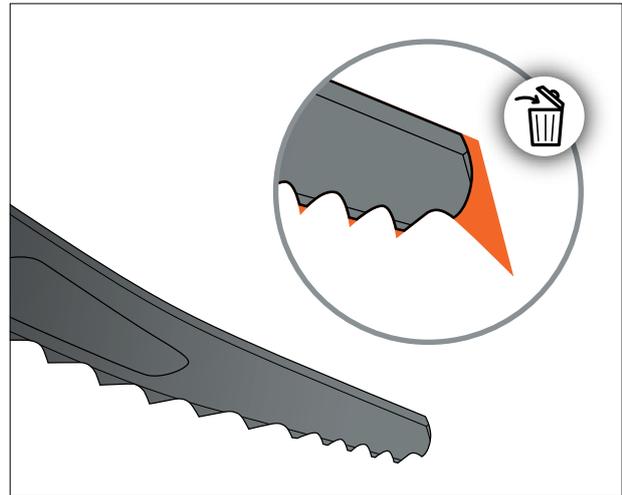
新しいピック



使用可能な状態、刃先を研いでください

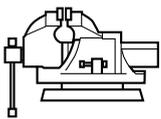


ピック先端の歯が削れている（フックが十分に効かない）
廃棄してください



ピックの先端が過度に摩耗している
廃棄してください

• 必要な道具



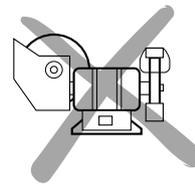
万力



平ヤスリ



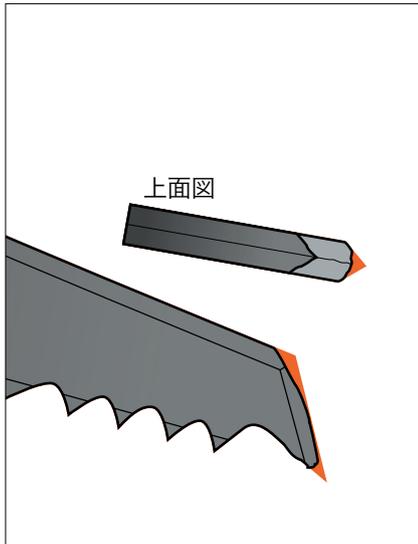
無溶剤タイプの潤滑剤、布



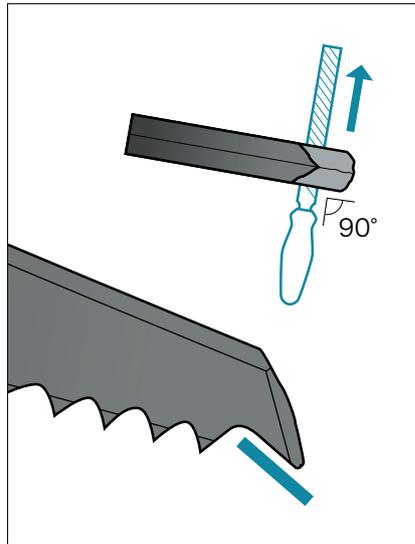
電動グラインダーは使用
しないでください

アイスアックス、クランポン、アイススクリュー

• ピックの研ぎ方

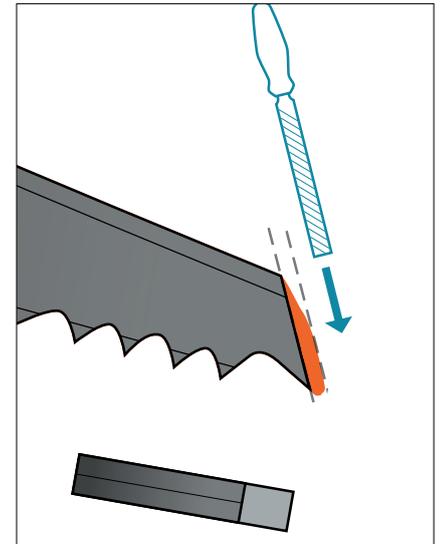


研ぐ前のピック



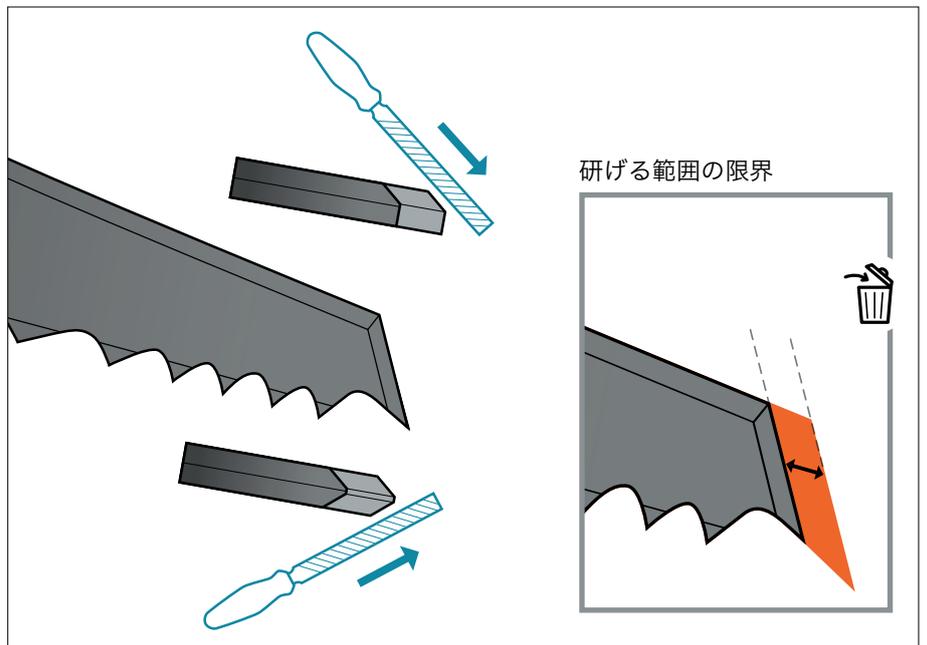
1- ピック先端の歯の下側を研ぐ

アックスを逆さ向きにして万力に固定します。ピックの元々の角度に合わせて、ピックの垂直方向にゆっくりとやすりがけします。ピックを長く使用するためには、研ぐ金属の量を必要最低限にする必要があります。



2- 先端を研ぐ

元々の角度になるように、先端の角をやすりがけします。



3- 先端を整える

鋭角を作らないようにしながら、先端の側面を研ぎます。中心部分に0.5 mm程度の平らな部分を残してください。これにより、効率性を損なうことなく、製品寿命を長くできます。

保管する前にピックに軽く潤滑剤を塗り、余分な油を布で拭き取ってください。

Blank page with horizontal dotted lines for writing.

Access the inaccessible®

用具の保護とメンテナンス Ver.1.2

